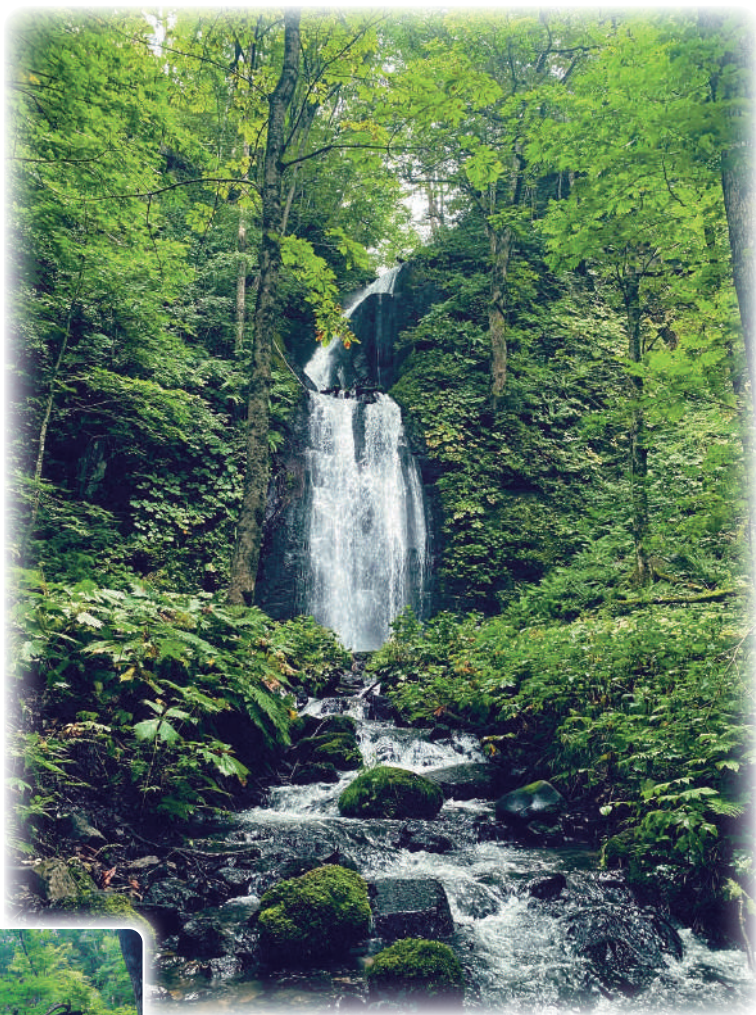
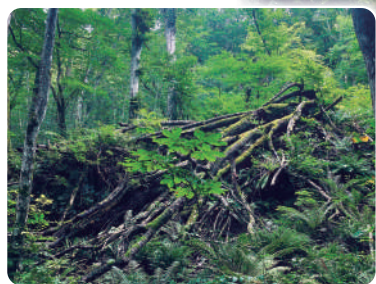


苔の美しさを再発見！ 奥入瀬渓流を歩く



名所のひとつ「雲井の滝」奥入瀬渓流へのアクセスなどの詳細は2Pをご覧ください。



倒木にも苔がびっしり

十和田湖を源流とする奥入瀬渓流は、十和田八幡平国立公園内にあり、国の「特別保護区」「天然記念物」「特別名勝」に指定されています。国内でこの3つに指定されているのは、奥入瀬渓流のほかは「上高地」と「黒部渓谷」のみ。豊かな自然と景観を楽しめる日本有数の観光スポットです。

奥入瀬渓流の全長は約14kmありますが、散策初心者の私は、まずは王道コースといわれる「三乱の流れ」から「雲井の滝」まで約3.5kmを歩いてみました。ゆつくり歩いて1時間半ほど。渓流沿いの遊歩道は平坦で歩きやすく、すぐ真横に川の流れを感じながら散策できるのは奥入瀬渓流ならでは。水の流れは緩やかなところもあれば、激しいところもあり、目まぐるしく変化する森の表情に飽きることはありません。

冬は雪、夏はこの地域特有の「やませ」と呼ばれる湿気を含んだ風によって年間を通じて湿度が保たれるため、約300種類もの苔が生息する。苔の森としても有名な奥入瀬では、折れた木や根っ

こ、橋の欄干さえもビロードのような苔に覆われています。苔は、長い年月をかけて繁殖することで土壌のような役割を果たすため、苔に包まれた岩から巨木が生えている神秘的な景観をあちこちで見ることができました。

奥入瀬渓流を代表するスポットといえば、「阿修羅の流れ」。力強いネーミングの通り、水がごうごうと最も豪快に流れる地点で、プロ仕様のカメラを構えて撮影している方がたくさんいました。

この先上流に向かって数分歩くと、この日のゴール「雲井の滝」です。水が流れ落ちるすぐそばまで行くことができますので、マイナスイオンをたっぷり浴びて帰ってきました。

散策のポイントは、下流から上流に向かって歩くこと。水の流れに逆らって歩いた方が渓流の迫力をより感じる事ができ、映像に撮ることができ、また、軽装の方もいましたが、木の枝が刺さったり虫が寄ってきたりするので、夏でも長袖長ズボンがおすすです。

紅葉や雪の時期には、また違った表情を見せてくれることでしょう。ぜひ行ってみてくださいね。